

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート矢切		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中に位置し、駐車場にある花壇でガーデニングを行い、季節の花を植えることにより入居者に季節感を味わっていただいている。近所のスーパーやお花屋にも入居者と共に行き買物や交流をしていただいております。地域住民との交流も積極的に行っている。また、地域で行われるお祭りや会食会にも積極的に参加すると共に内部の季節の行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。家庭的な環境の中でお客様ということをお忘れず、その中で家族の一員として、自宅でこれまで当たり前のようにしてきたことがガーデンコートでもできるような環境づくりをしている。地域で行われるお祭りや会食会にも積極的に参加すると共に内部の季節の行事も開催し、楽しみのある生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お客様・ご家族・地域の「健やかな暮らし」に貢献することを社是とし、信頼される行動を、仕事にベストを、成長を目指し、ステークホルダーの安心を追求する。といった理念を掲げ、毎月の拠点会議で共有を図っている。利用者の「健やかな暮らし」の提供に向け、利用者がこれまで当たり前のようにしてきた事がホーム内でも出来るような環境づくりを目指している。地域密着型サービスとして地域との交流の充実にも前向きに取り組んでおり、地域主催のふれあい会食会への参加や地域のお祭りへの参加を通じ、地域とも顔なじみの関係が築かれてきている。今後に向けては戸外活動の充実にも前向きに取り組む、利用者の生活の幅をより広げていく事に取り組む姿勢が確認出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに会議を開催し、社是、経営理念、心得を全スタッフに説明し、周知徹底している。	お客様・ご家族・地域の「健やかな暮らし」に貢献することを社是とし、信頼される行動を、仕事にベストを、成長を目指し、ステークホルダーの安心を追求する。といった理念を掲げ、毎月の拠点会議で共有、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや盆踊りに参加したり、近所のスーパー等に買い物に行き、極力地域資源を活用し生活していただいている。	地域との交流では、自治会への加入のほか、地域の祭り、ふれあい会食会(1回/月)に参加、フラダンスのボランティア、中学校の職場体験、専門学校の実習生の受け入れを通じ交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に民生委員や地域の代表の方に参加していただき生活の状況を説明し理解をしていただいている、		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの運営状況や行事報告、地域活動の参加内容などを報告させていただいている。参加者の方々からご意見を頂き、サービスの向上を図っている	会議には、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、民生委員、家族等の出席があり、利用者状況やサービス状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター、地区在宅介護支援センター職員に運営推進会議に参加していただき、取り組み等伝え、協力しながら運営をしている。また、市の担当者とも必要に応じて連携を図りサービスの質の向上に取り組まれている。	市担当者(高齢者福祉課)とは必要に応じて連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修に参加し、その内容を社内でも伝達研修を行い、スタッフに理解して頂き、身体九速のないケアを徹底している。	身体拘束をしないケアの実践に向け、7月の拠点会議において、「身体拘束とは?、高齢者虐待とは?」をテーマにした研修を実施し、全職員の理解を高め、身体拘束をしないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で年1回は行い、虐待のないケアについて検討し、周知徹底している。		

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが必要に応じて関係者に助言をいただきながら対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説書を説明する際に質問をお聞きする時間を設け理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを年1回行い、意見をいただき運営に反映させている	法人主導による顧客満足度調査を毎年実施し、家族からの意見、要望を聴取している。また面会時や来訪時には直接声かけをして話を伺う機会を設けている。内外の苦情窓口については、契約時に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、拠点会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。	拠点会議時において職員からの意見・提案を聴取し、その場で話し合い、採用できるものは反映している。また、日頃から管理者が現場職員に声をかけ、日常的に話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の評価を行っている。また、話し合いの場を設け職場の環境等スタッフの意見を聞きながら整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で入社年数別の研修やケアマネ研修を開催したり、1年間の社内研修の計画を立て社内研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内事業所での意見交換や勉強会は行っているが他事業所との交流は少ない。		

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様にも見学に来ていただき、ホームの雰囲気を感じていただき、時間をかけてコミュニケーションを図りながら安心を確保した関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前にご家族様とお話しする時間を多くとり、要望や困っていることをいお聞きし関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様の要望や不安なことをお聞きし、適切なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が一緒に身の回りのことや日常生活の活動を行なうようにしており、介護する側、される側の関係ではなく、家族のような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化がある場合はもちろん、普段の様子も随時報告し、必要に応じて面会して頂き、連携を図りながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族様との外出や面会を自由に行っていただき関係を築ける環境にしている	友人の来訪の受け入れや家族に協力を得ての外出等を通じ、利用者本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお客様と関わりを持ちその中でお客様の関係を把握し、仲の良いお客様が関われる環境を作っている。		

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所する際、相談に乗ることを伝え退所後も連絡させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望をお聞きし、ケアプランに反映している。困難な場合はこれまでの生活歴やご本人の趣味をご家族様よりお聞きし、意向を把握するよう努めている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握は日常的な会話や家族からの要望の聴取時に把握に努めている。把握が困難な場合は、本人本位に検討し家族と相談のうえ、支援方針を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時にご本人やご家族からお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の会話や初回面接時にご家族様への聞き取りを行い、はあくするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との会話やご家族様との話し合いを行い、要望やアイデアを取り入れた介護計画を作成できるよう努めている	利用者の現状や課題等をアセスメントにおいて収集し、その後サービス担当者会議において職員間で支援方針を検討しケアプランを策定している。ケアプランで掲げた目標の達成状況に関しては毎月のモニタリングの中で確認している。	ケアプランに関する家族への説明が作成日から時間が経過してしまうケースも見受けられた事から、時間のロスが生じない工夫も必要であろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ介護計画の要望を取り入れ、その内容について実践、結果の記録を残し、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望や状況が変化した場合、相談をしながらサービスを決め、柔軟に取り組んでいる		

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員に働きかけ活用できる地域資源の把握に努めている。また、近くの公園へ散歩に出かけたり、会食会に参加し地域資源を利用し、楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしている。連携医療機関を希望された場合は、週に1度の往診と夜間、急変時にも対応していただき、ご家族へその都度連絡をしている。	ホーム提携先医療機関とは良好な関係を築き、利用者が適切な医療を受けられる体制としている。また提携先医療機関とは24時間連絡が可能であり、緊急時においても迅速な対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の連携は図っておらず、提携医療機関の医師と連携を図り、随時相談や指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、まめに訪問し、情報交換に努めている。また、普段から病院へ訪問し、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連携医療機関と連携を図る中で主治医が終末期と判断した場合はご家族様、主治医と相談しながら今後の対応について相談し、方針を決めている	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時や早い段階から家族等と話し合いを行い、ホームでできることを十分に説明して方針を共有している。重度化を迎えた際には、主治医、家族と話し合いを行い今後の支援方針を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、対応できるようにスタッフに伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、全スタッフが対応できるようにしている。近隣住民との協力体制については今後の課題である。	消防署の連携のもと避難訓練の実施や座学において、初期消火、避難方法の確認、消防設備点検に関しては年2回実施している。緊急時においては緊急連絡体制により、近隣に住むスタッフに連絡が行く体制を整備している。	災害時に備えた備蓄品の確保や地域との協力体制の確保のほか、災害発生後において家族へ利用者の安否をどのように報告するのか連絡方法の明確にしていく事も必要であろう。

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部の接遇マナー研修に参加し、参加者が伝達研修を実施することにより職員一人一人が意識して言葉かけが行われている	ホーム内における接遇マナー研修を通じて、全職員が利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が図れるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密に図り、その中で希望を聞きだせるような声かけを行うよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが買い物や散歩等希望があるときには出かけたり食事の時間など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類を選んでいただき好きな洋服を着ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲でお手伝いをさせていただいている	食事の準備や後片付けにおいては、利用者の状態を考慮しながら可能な限り利用者が関わることが出来るように支援している。食事を楽しむ工夫では、地域主催のふれあい会食会への参加、お寿司や弁当の出前等の取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に残し、少ない方には定時以外でも水分補給を促している。食事メニューも外部の業者が作成しておりバランスの取れた食事が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後航空ケアを行うとともに週1回、歯科往診をし、状態を見ていただき必要に応じて治療や口腔ケアの指導をさせていただいている。		

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、必要な方にはトイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては、個人日誌内の排泄表に記録している。職員間で利用者の排泄パターンを共有しながら、定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や散歩等身体を動かす機会を作るとともに食品も工夫し、便秘にならないよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め入浴しているが希望者がいる場合には、入っていただくなど柔軟に対応している	入浴については、体調を考慮しながら週3～4回入浴できるよう支援している。入浴中は安全性を確保するため1対1の介助を実施し、入浴時様子等は利用者の個人日誌の入浴欄に記録している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの今までの生活習慣に配慮し、温度や明るさなど調整し、安心して眠れるよう支援している。また、1時間に1回の巡視を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をいつでも確認できるようファイルにしてある。また、服薬時は名前を読み上げ、スタッフ、本人に確認していただくから服薬して頂き、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の会食会やホームの行事(外食会等)に参加して頂き、楽しみごとを作っている。また、趣味活動や日常生活の中での役割を持って頂き職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に配慮しつつ、散歩に出かけたり地域の会食会やお祭りへの参加、ホームでの行事でお花見や梅を見に行ったりし、外出する機会を作っている。	近隣の散歩や嗜好品の買い物、地域主催のふれあい外食会への参加、外出行事としてお花見や地域のお祭りへの参加等を通じて戸外に出かける事が出来るように支援している。	ふれあい会食会への参加等を通じて外出できる機会を提供しているが、利用者の生活リズムに合わせ、個別でホーム周辺の散歩に出かける等、戸外活動の更なる充実に期待したい。

グループホームガーデンコート矢切(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族からお預かりし、本人の要望がある時、及び必要に応じてご家族同意のもと買い物している。また、ご家族ご了解のもと出来る方に関しては金銭管理を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、事務所にて自由に使用して頂いている。手紙に関しては、届いた手紙をご本人に渡し、要望があれば散歩等の際にスタッフと一緒に出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は、過ごしやすい温度に設定し、居心地良い環境を整えている。また、花や行事の写真を掲示し、季節感が感じられる環境にしている。	利用者が集うリビングは、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮され、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者で席を一緒にし、会話を楽しめるよう工夫している。また、ソファを設置し自由に使用して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは、馴染みのあるタンスや日常使用する茶碗、箸等持参していただき使い慣れたものを使用していただき居心地よく過ごせるよう支援している	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かして、なかには自分で描いた絵や写真など飾り、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ることを把握し、ご本人の出来ることに関しては声かけをし、スタッフ見守りのもと、安全に配慮しながら行っている。		